

ストリートピアノを思いやりの架け橋に

旭野高等学校 1 年
谷口 乃理

改札を出たきり、どうしようもないほど疲れていて、家に帰る気力すらないと思うときがあります。そんなとき、駅に響くストリートピアノの音に惹かれて、思わず足を止めて、聞き入ってしまいます。

私の使う最寄り駅には、町の人々の寄付によって、数年前から、夜中以外はどんな人も自由に弾くことができるストリートピアノが設置されました。私が中学生の時は、電車を使うことが少なかったため、たまに駅を通った時にピアノの演奏が聞こえても、特に気に留めず、ぼんやりと聞き流すことがほとんどでした。しかし、高校に進学し、毎日電車を使う新しい生活が始まりました。課題や部活も増え、これまでの生活と比べものにならないくらい多忙で、充実した生活をするようになり、駅に着いたころには、歩いて帰ることすら億劫な状態の日が増えていきました。

そんな中、疲れきった体に染みわたるピアノの音は、一日の疲れをいつときでも忘れさせてくれるくらい特別に癒される音に感じました。駅では、驚くほどに上手いおじさんがクラシックを弾くと、通り過ぎる人々が「うまいね」と言葉を交わし合ったり、途切れ途切れでも一生懸命に幼い女の子が弾いていたり、暑くなり、夏らしい曲が演奏され、季節の一片を感じることができたり、様々な人がピアノの演奏を通してそのときどきの穏やかな時間を作り出してくれていました。そのため、私は帰りに駅で聞くストリートピアノを、「今日はどんな曲かな」、「どんな人が弾いているかな」と、少しばかり楽しみにする毎日を過ごすことができていました。

しかし、最近、他の町で、ストリートピアノに関する苦情が相次ぎ、撤収されることが増えているというニュースを目にしました。

寄せられた苦情の一つに、「上手くないなら騒音に感じるから弾くな」というものがある

りました。毎日ピアノの演奏とその姿に元気づけられている自分には、到底思いつくことがない考えで、とても驚きました。また、そのニュースに、ストリートピアノに対する反感や、ピアノの音を騒音と考えるコメントが沢山寄せられていたことにも悲しくなりました。

同時に、私は、最近体験した出来事を思い出しました。一生懸命ピアノを弾く幼い女の子の姿を目にしたことです。女の子の演奏は、完璧に仕上がっているとは言いがたかったものでした。しかし、弾き終わった後には、周りの人々から拍手が送られ、「上手だね」と声を掛けられると、得意げに思ってお礼を言う姿が印象的でした。女の子のひたむきな姿と演奏を、沢山の人が応援し、元気をもらっていることが伝わり、見ていた私もつい笑顔になってしまいました。

ストリートピアノの音が騒音としてとらえられ、苦情の原因になるという悲しい側面もあるのかもしれませんが、私が体験したような微笑えましい出来事があるからこそ、無くなってほしくない強く思いました。

ストリートピアノは、町の人々がモラルを守り、お互いに思いやりをもつことで、その場を憩いの空間に変えることができるものだと思います。人前で演奏するということは簡単なことではないからこそ、その姿勢が聞く人の心を動かすのだと感じました。

ストリートピアノはまさに、「人と人をつなぐ架け橋」になり得ると思います。ストリートピアノがあり、弾かれているということが、町の人々が思いやりをもって繋がっているという象徴になると素敵だと思います。